

心身一如

万病息災への旅

「バランスのよい食事と適度な運動が大事」。誰もが一度はお医者さんから聞いたことがある言葉だと思いませんか。

医師にとってはどこか逃げ口上の面がある一方、患者側としてはあまりに抽象的で具体性に乏しく、何かかむに巻かれたような感じでしょう。

このような言葉は多々存在し、よく健康食品などのパッケージに書かれている。「何かございましたらお医者さんにご相談ください」というのもその一つです。

これは消費者には安心感を与えるかもしれませんが、医師にとっては、それらの多くが聞いたことも見たこともないものがほとんど

⑭ 人にとって食は闘い



(イラスト 山本重也)

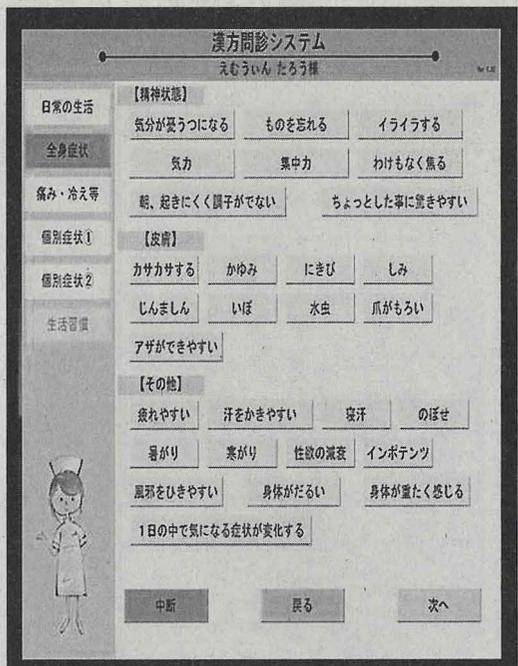
加工して解毒や保存

の場で過不足のない栄養摂取が必要ということ、三つ目が食のおいしさと安全性という精神性の追求です。まず食の闘いについてですが、私たちは私たち以外の動物を食べて生きていくしかありません。しかし、動物物は私たちに食べてもらいたくないわけではなく、その証拠に彼らは食べられたくない工夫を皆一生懸命しています。臭みや苦味、毒素やアレルゲンなどは、その典型です。特に食べられたくない時期があり、繁栄に関わる時期である種や卵、お乳などにアレルギーが多いことは、皆さんもよくご存じだと思います。ソバやナッツ、大豆、牛乳、卵などのアレルギーの存在がそれを示し

どで「相談されたらどうしよう」と複雑な心境になります。少し脱線してしまいましたが、今回から心身の代謝の要となる人の食について

考えてみたいと思います。現代食には満たさなければならない価値観が三つあると思います。その一つ目がまず食の闘いに勝つこと。二つ目が食は栄養獲得

専門医以外には難しいとされる漢方独特の診断法を、ITを活用して広く普及させられないか。漢方の診断支援システムの開発が、厚生労働省などの研究費で2008年から進んでいる。目標は、国際的にも分かりやすい診断の標準化。まだ道半ばだが、完成すれば漢方がもっと身近になりそうだ。



患者が自覚症状などを入力するタブレット端末の画面(渡辺賢治氏提供、液晶画面は、はめ込み合成)

漢方医の技再現めざす

現在、健康保険で使える漢方薬は約1500種。業界団体の調査によると、日常診療で漢方薬を使用している医師(眼科、美容外科など)一部の診療科を除く)は約9割に上る。10年末時点の医師数(約29万5千人)に単純に当てはめると、全国で26万人以上が漢方薬を処方している計算だが、日本東洋医学会が認定した漢方専門医は2千人余り。「大半は専門的な知識がないまま、西洋医学の薬の代用としてわずかな漢方薬を使っているのが実態」と研究代表の渡辺賢治慶応大教授(内科と漢方が専門)は話す。

漢方は、患者の症状だけでなく体質にも着目し、「証(しょう)」と呼ばれるその人のタイプに合わせた薬を選ぶ。このため、西洋医学的な病名は同じであっても、漢方では患者によって用いる薬が異なるという特徴がある。

漢方は一人一人に最適な「個別化医療」を目指す点、検査結果よりも患者の訴えを重視する点で、漢方はより患者目線に立った医療と言えるのではないかと渡辺さん。だが、証の見立ては医師の専門知識や経験に基づいており、分かりやすい客観的基準がない。「これ

使っても、良さを十分に引き出せない」と、一般医師向けの診断支援システムの開発に取り組むことになったという。その第1段階として、患者が自分の自覚症状や体質を、タブレット端末などのタッチパネル式画面で入力する「問診システム」を製作した。患者は画面に表示される「イライラする」「暑がり」など数百項目の質問や選択肢への答えを入力。漢方専門医による診断結果と照合することで、適切な診断につながる問診項目を絞り込んでいった。データの集積は10年にまず慶応大でスタート。その後、富山大、

IT活用し診断支援

漢方医の技再現めざす

進むシステム開発、世界発信も

千葉大など計7施設に広げ、最終的に患者約6200人分、約3万5千件のデータを集め、148の問診項目を選び出した。その結果、証の一部については、患者の画面入力に基づいて専門医の診断に近い結果を導くことができるようになった。が、施設によって特定の証の診断が多い、少ないといった、いわば「癖」のような傾向が見つかり、客観的な基準の確立にはさらに検討が必要になることが明らかになった。渡辺さんらは、これまでの成果を基にシステムの改良を続ける方針だ。

漢方診断の標準化を渡辺さんが目指す背景には、別の事情もある。日常の診療に加え死因などの統計にも使われる世界保健機関(WHO)の国際疾病分類が2年後(15年)に改定され、日本の漢方を含む東アジアの伝統医学の診断項目が、西洋医学以外で初めて取り入れられる予定になっていることだ。

Table with 2 columns: Category (全体, 未就学児, 小学生, 中学生) and two data points (49.8%, 50.2) representing awareness of vision impairment.

高い医療が行われている上、日本製の漢方薬は品質が安定し安全性も高いという特長があり、世界に積極的に発信できる可能性があると渡辺さんは強調する。

色覚障害 自覚に遅

先天的な色覚障害のある数近くが障害に気づかない就職の時期を迎え、進路の職種断念を迫られるケースとが日本眼科医会の調査で、小学4年の健康診断で実施色覚検査が2003年度以降で約2割に達したことが明らかになった。同会は希望者に対する必要性を訴えている。調査は10年度から11年度2年間、全国657の眼科